防長路

地域と大学

県立大紙上レクチャー

≪7≫

桜の森カレッジ㊤

社会福祉学部 内田充範准教授

講座の主役は受講生の皆さん

県立大付属地域共生センターの事業に、「やまぐち桜の森カレッジ」があります。身近に生じている課題を取り上げ、解決するために、体系的・専門的・実践的に学ぶのが狙い。地域活動のリーダーや職業人などとしての資質を磨きます。

昨年度、人づくりコースを担当。「人づくりは自分づくりから～だれもがイキイキとくらしていくために出来ること～」をテーマにゼミナールを開催しました。

ちょうど、孤独死や、消えた高齢者問題などから「無縁社会」という言葉が流行語の一つとなっていたころ。新聞記事の特集や、さまざまなデータなどから、「住民が安心して生活できるソーシャルサポートシステムを考える」という資料を作成しました。

それを基に、合わせて15時間のゼミナールを展開しました。受講生は、既に地域で活動されていたり、これから何かしなければと思案されていたりする方々ばかり。それぞれが豊富な話題を持っておられました。

ゼミナールは毎回、受講生一人一人の経験や、地域の現状に対する熱い思いで盛り上がりました。私にとっても、新しい発見をさせていただく学びの場となりました。

ディスカッションでは、「地域を自画自賛」というタイトルで取り組みました。受講生の皆さんに、生活されている地域の良いところや強み（ストレングス）を挙げてもらいました。

それらの内容を分類・整理して、「住みよい地域は人づくりから（声掛け、おせっかいの薦め）」「桜の森カレッジで自分づくり・自分磨き」ということを導き出すことができました。

このように、「やまぐち桜の森カレッジ」をはじめとする、付属地域共生センターの事業は、いずれも受講生である県民の皆さんが主役です。地域における身近な課題に取り組んでいる方はもちろん、学びたいという情熱をお持ちの皆さんをお待ちしています。

教員との出会いとともに、受講生同士のつながりもできます。昨年の夏には、その後の近況報告を兼ねて、人づくりコースを受講した人たちの同窓会を開催しました。

これからも、県民の皆さんの期待に応えられるよう、私たち教員も自身の専門性を生かしたテーマを提供させていただきます。どうぞ積極的にご参加ください。

◆木曜日に掲載します

資料を基に、どんなソーシャルサポートシステムが考えられるか話し合うゼミナールの参加者

うちだ・みつのり　明治大経営学部卒。宇部市役所で23年間勤務。うち17年間ほどは福祉事務所で、生活保護ソーシャルワーカー、専任面接相談員、生活保護査察指導員などとして働いた。宇部市の市障害者福祉計画、災害弱者のための防災ガイド、市地域福祉計画の策定にも関わる。2006年から現職。専門は公的扶助論、福祉行財政論など。ソーシャルワーク演習・実習なども担当し、社会福祉現場で活躍する実践力を備えた社会福祉士を養成している。県社会福祉士会会員。